

テーマの設定理由

幼児が遊びの中で疑問に思ったことや分からないことがあった際、すぐに答えを教師に求める姿が見られることや、教師自身が園内の自然環境を理解しきれておらず、身近な自然を遊びに取り入れることが十分にできていないことが課題であると感じたため。

活動スケジュール

- ・月に一度 園内研究会
(6月20日、11月20日、1月16日は研究保育実施、
講師による指導・助言)
- ・プロ・ナチュラリストによるフィールドワーク
幼児向け：9月8日、11月21日、1月27日
教員向け：12月17日、1月20日、2月10日



- ・砂場で砂を掘り、水を出して川や海をつくる際、水が溜まりやすい場所を選ぶ。
- ・山をやめらかにしていという幼児の言葉を受け、新しい道具のローラーやこてを出す。
- ・幼児が水の流れを楽しみ始めたタイミングで新しい遊具である樋を出す。
- ・海のイメージで遊ぶ中で幼児から「船」という言葉が出てきたため、新しい遊具である船の遊具を出す。

活動事例

砂場での遊び（砂や水との関わり）



幼児と一緒に教師も裸足になり、砂や水の感触を手や足で楽しみながら山や川をつくる。回数を重ねる中で、友達の川とつなげて長い川をつくることや、高い山をつくってトンネルを掘ることが楽しくなる。山に筒状の塩ビ管を置き、水を流している姿があり、水の流れが見えやすいように樋を出す。水の流れをおもしろがり、樋の組み方を考えたり、船の遊具を流したりして遊ぶことを楽しむ。

振り返りを踏まえた気付き

幼児が教師と一緒に十分に感触を楽しみ、砂や水の性質にふれる経験をしたことが、山をつくってトンネルを掘ったり、水の流れを楽しんだりする姿につながっている。また、幼児の姿を予測し、新たな遊具や道具を幼児の実態に合わせてタイミングよく出すことで、幼児の意欲がより高まる。